

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
専門学校 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ		昭和54年5月1日	水野 倫理		〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人水野学園		昭和58年4月1日	水野 孝彦		〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350				
目的	ジュエリーデザイン科アドバンスジュエリーコースは、ジュエリー・アクセサリ業界、宝飾工芸界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持った人材を育成することを目的とする。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
文化・教養	宝石専門課程		ジュエリーデザイン科 (アドバンスジュエリーコース)		—		平成18年文部科学省告示第88号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
	4年 昼間							4544	76
単位時間									
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
96人		132人		5人		2人		7人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■前期:4月1日～9月30日</li> <li>■後期:10月1日～3月31日</li> </ul>			成績評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>■成績表 有</li> <li>■成績評価の基準・方法</li> </ul> <p>評価基準は、90点以上をA、80点以上90点未満をB、70点以上80点未満をC、60点以上70点未満をD、59点以下はF(不可)とする。また評価には値しないが習得レベルに達したと判断された場合はPとする。成績評価は、課題物評価、試験等により行う。</p>			
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学年始:4月1日～4月14日</li> <li>■夏季:8月1日～8月31日</li> <li>■冬季:12月20日～1月10日</li> <li>■学年末:2月17日～3月31日</li> </ul>			卒業・進級条件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校長および教職員による卒業・進級判定会議において認定されること。以下の①～④を総合的に判断して認定する。</li> <li>①課題物評価 ②出席率 ③授業態度 ④成績</li> <li>・学費を完納していること。</li> </ul>			
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>■クラス担任制 有</li> <li>■長期欠席者への指導等の対応</li> </ul> <p>電話・メールでの連絡、担任面談、自宅訪問、保護者連絡 など</p>			課外活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>■課外活動の種類</li> <li>国内外コンテスト参加、学園祭、海外研修旅行 など</li> <li>■サークル活動 なし</li> </ul>			

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 (株)ミキモト装身具、(株)emデザイン、(株)A&amp;S など</p> <p>ジュエリー業界、ファッション業界</p> <p>■就職率※<sup>1</sup> 94.4 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※<sup>2</sup> 57 %</p> <p>■その他 海外留学、進学、オリジナルブランドの立ち上げ など (平成 29 年度卒業者に関する平成30年5月1日 時点の情報)</p>	主な資格・検定等	<p>貴金属装身具製作技能検定【3級・2級】</p> <p>ジュエリーコーディネーター検定【3級・2級】</p> <p>水野学園 職業技能検定 CAD部門【3級・2級・1級】 ジュエリー部門 ・デザイン【3級・2級・1級】 ・メタル【3級・2級・1級】 ・WAX【3級・2級・1級】</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 6 名</p> <p>平成29年4月1日 在学者 121 名 (平成29年4月5日 入学者を含む)</p> <p>平成30年3月31日 在学者 115 名 (平成30年3月15日 卒業者を含む)</p> <p>■中退率 5.0 %</p> <p>■中途退学の主な理由 経済上の理由、健康上の理由、履修上の理由 など</p> <p>■中退防止のための取組 担任制、出席状況・課題提出状況を書した保護者通知の発送(年2回)、学校長メールアドレスの全学生公開、専門医によるカウンセリング、学生相談、個人面談 など</p>		
ホームページ	URL <a href="http://hikohiko.jp">http://hikohiko.jp</a>		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。  
(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

ジュエリー・アクセサリ業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持った人材を育成するために、同業界の企業と連携して以下の①～④を踏まえた教育課程の編成を行う。具体的には、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、ジュエリーデザイナー、製作者、販売スペシャリストとして必要となる知識や技術など実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討することを基本方針とする。

- ① 新商品企画に関するマーケットリサーチや商品開発力の育成
- ② 各種PCソフトや3DCADデザイン技術を含めた、商品デザイン力の育成
- ③ オーダーメイドから量産までに対応する商品製作の技術力の育成
- ④ 商品の販売に関わる流通や店舗企画力、顧客対応力の育成と、関連する商品知識の習得

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名前	所属
西田 良洋様	一般社団法人 日本ジュエリー協会 理事
松本 薫 様	一般社団法人 日本時計輸入協会 専務理事
飯嶋 薫 様	一般財団法人 ファッション産業人材育成機構 理事
大川 知子様	実践女子大学 生活科学部 生活科学科 生活環境学科 准教授
横山 裕 様	株式会社桑山 デザイナー
林 繁 様	ブライtringジャパン株式会社 時計技術部技術トレーナー
大澤 重仁様	株式会社シャミオール 代表取締役社長
野村 俊一様	有限会社野村製作所 代表取締役社長
水野 倫理	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 学校長
酒匂 博	学校法人 水野学園 教育部長
松山 英一	学校法人 水野学園 総務部長
斎藤 良	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者
飯塚 ひろ子	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者
大友 宏幸	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ウオッチ系) コース責任者
川島 謙二郎	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ シューメーカー科/バッグメーカー科 コース責任者

(開催日時)

第1回 平成29年8月28日 14:40～15:30

第2回 平成30年3月5日 14:00～16:40

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

多様化するジュエリーマーケットの現状を把握し、業界において即戦力をもった人材を育成するために、連携する企業より商品の企画から製品化までの流れを享受ならびに学生作品の評価を受けることを基本方針とする。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン造形実習Ⅲ-4 メイキング造形実習Ⅲ-5	① 企業視点でのジュエリー提案や業界アピールの実践的な体験 ② ジュエリーデザイン・制作およびプレゼンテーションの実践的な手法を習得	株式会社 桑山

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ・実務に関する知識、技術、技能などの向上のため、同業界から各職種の専門家による実践的技術・知識の研修を規定に則して計画的に実施する。
- ・指導力の習得・向上のため、人材開発や教育指導力の教育専門機関による研修を規定に則して計画的に実施する。

#### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名 前	所 属
西田 良洋様	一般社団法人 日本ジュエリー協会 理事
松本 薫 様	一般社団法人 日本時計輸入協会 専務理事
飯嶋 薫 様	一般財団法人 ファッション産業人材育成機構 理事
大川 知子様	実践女子大学 生活科学部 生活科学科 生活環境学科 准教授
吉田 昌充様	東日本ハンドバッグ工業組合 理事長
横山 裕 様	株式会社桑山 デザイナー
堀田 峰明様	株式会社ホッタ 取締役社長
林 繁 様	ブライトリングジャパン株式会社 時計技術部技術トレーナー
大澤 重仁様	株式会社シャミオール 代表取締役社長
野村 俊一様	有限会社野村製作所 代表取締役社長

(学校関係者評価結果の公表方法)

[http://hikohiko.jp/about\\_info](http://hikohiko.jp/about_info)

#### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

[http://hikohiko.jp/about\\_info](http://hikohiko.jp/about_info)

授業科目等の概要

(宝石専門課程ジュエリーデザイン科 アドバンスドジュエリーコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン基礎実習Ⅰ-1 (パース技法 基礎Ⅰ)	透視図法の基本を習得し、ジュエリーレンダリングの基礎を学習する。	1前	40			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-2 (デザイン展開基礎)	具象物をモチーフにし、ジュエリーにおけるデザイン展開の方法や、二面図による製図表現を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-3 (パース技法 基礎Ⅱ)	透視図法を応用し、ジュエリーレンダリングにおける基礎とその表現方法を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-4 (ジュエリーデザイン基礎Ⅰ)	ジュエリー独特の立体表現を理解し、様々なデザインリングの表現方法を学習する。	1後	48			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-5 (宝石表現)	ジュエリーデザイン画の描き方や、宝石表現方法の基礎を学習する。	1後	40			○	○		○			
○			デザイン基礎実習Ⅰ-6 (リサーチからのデザインⅠ)	ジュエリーショップをリサーチし、設定ターゲットに合わせたセットジュエリーのデザイン展開や、プレゼンテーションを学習する。	1後	64			○	○		○			
○			宝石研磨	原石のカットからポリッシングまでの基礎を学習する。	1後	24			○	○		○			
○			コンピューター演習Ⅰ-1 (CADによるリング制作基礎)	CADソフトの基本的な操作と、出力した立体造形物の制作工程の基礎を学習する。	1通	32		○			○		○		
○			メイキング基礎実習Ⅰ-1 (リング制作 基礎)	基本形状のリング制作を通して、ジュエリーメイキングの基礎技法と使用工具の名称や取り扱いを学習する。	1前	96			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-2 (ワックス造形 基礎)	ワックス素材の種類や特性を理解し、ワックスによる原型制作の方法および鑄造の基礎知識と仕組みを学習する。	1前	72			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-3 (覆輪留め技法)	覆輪留め技法による1個石リングの制作工程および仕上げ方法を学習する。	1前	32			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-4 (爪留め技法)	爪留め技法による1個石のペンダント制作を通して、パチカンを含めた制作工程および仕上げ方法を学習する。	1後	56			○	○		○			
○			メイキング基礎実習Ⅰ-5 (立体造形 基礎Ⅰ)	粘土・WAXの2種類の材料を使用し、具象物を模刻することで造形力の基礎を学習する。	1前	32			○	○		○			

○		メイキング基礎実習Ⅰ-6 (立体造形 基礎Ⅱ)	紙を材料とし、切る・折り曲げるなどのシンプルな技法のみを用いた立体造形の可能性を探求し、その造形表現を学習する。	1 前	32					○	○	○					
○		メイキング基礎実習Ⅰ-7 (カーウイング技法 基礎)	硬質発泡スチロールを材料とし、カーウイング技法を用いた立体造形を学習する。	1 後	40					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅰ-1 (異素材の探求)	貴金属以外の素材や様々な技法の可能性を探求し、ジュエリーアイテムにおける展開方法と表現方法を学習する。	1 前	64					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅰ-2 (ブローチ制作 基礎)	ブローチやブローチピンの種類や構造、その基礎的な制作工程および仕上げ方法を学習する。	1 後	32					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅰ-3 (オリジナルジュエリー制作Ⅰ)	各々の表現意図および制作条件等を考慮した上での作品制作を学習する。	1 後	96					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅰ-4 (プレートからのジュエリー制作)	切り回し、擦り合わせ、ロウ付け作業などの基本的な技法を用いた、平面素材からのジュエリー制作を学習する。	1 前	32					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅰ-5 (ブレスレット・ピアス制作)	線の構成によるブレスレット及びピアスの制作工程を学習する。	1 後	64					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅰ-6 (オリジナルジュエリー制作Ⅱ)	自分で研磨した石を石留めしたオリジナルジュエリー制作を通して、素材の形や特性をいかしたデザイン・造形表現を学習する。	1 後	72					○	○	○					
○		宝石学A-1 (宝石の基礎知識)	宝石の基礎知識。硬度や輝きなどの宝石に関係する基礎的な物理・光学的性や、宝石を種類別にそれぞれの知識について学習する。	1 通	40		△			○	○	○					
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	1 通	40					○		○	○				
○		スピードテスト・基礎知識テスト	基礎的なジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を学習する。	1 後	12		△			○	○	○					
○		特別セミナーⅠ	本学創立の歴史や学園の遍歴を通してその学園理念を学習する。	1 後	4		○			○		○					
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	1 通	136					○	○	○					
○		デザイン基礎実習Ⅱ-1 (着彩表現)	実践的なパールやダイヤモンドメレーを使用したジュエリーの着彩表現を学ぶ。近代デザイン史を通して、デザイン様式の基礎を学習する。	2 前	32					○	○	○					
○		デザイン造形実習Ⅱ-1 (レンダリング 応用Ⅰ)	様々な対象に合わせてジュエリーをデザイン。モデルの画像に直接レンダリングを描く表現を学習する。	2 前	32					○	○	○					
○		デザイン造形実習Ⅱ-2 (ポートフォリオⅠ)	金を使用したオリジナルデザインリングのアイディアスケッチ、制作工程、完成状態を一冊のカタログにする方法を学習する。	2 後	48					○	○	○					

○		デザイン造形実習Ⅱ-3 (立体造形 応用)	ケント紙を使用して、ジュエリーの代表的なモチーフのひとつであるアルファベットを制作する。立体感の重要性を学習する。	2 前	32					○	○	○					
○		デザイン造形実習Ⅱ-4 (商品デザイン)	素材と形の組み合わせによる商品デザイン。素材を変えることで商品のイメージがどう変化するかを学習する。	2 後	40					○	○	○					
○		デザイン造形実習Ⅱ-5 (商品企画・提案/PCスキルⅠ)	他業種がジュエリーを新開発することを想定し、商品の企画提案を行う。パワーポイントを用い、プレゼンテーション手法について学習する。	2 後	40					○	○	○					
○		デザイン造形実習Ⅱ-6 (ターゲットを絞ったデザイン提案Ⅰ)	身近な対象者を1人選び、対象者の分析、インタビューから、対象者に贈るジュエリーをデザインする方法を学習する。	2 後	32					○	○	○					
○		コンピューター演習Ⅱ-1 (CADによるリング制作 応用)	CADソフトを使用してのジュエリー制作応用を学習する。	2 通	32				○	○	○						
○		メイキング基礎実習Ⅱ-1 (彫り留め技法)	彫りタガネによるマス留め、パヴェ留めを学習する。	2 前	48					○	○	○					
○		メイキング基礎実習Ⅱ-2 (色金)	四分のリングに色金を象嵌し象嵌技法の工程を学習する。	2 前	32					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅱ-1 (ゴールドジュエリー制作)	金を素材とし金とは何かを考えオリジナルなリングを制作する工程を学習する。	2 後	168					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅱ-2 (象嵌と打ち出し技法)	色金による象嵌と打ち出し技法を習得しオリジナルなブローチを制作する工程を学習する。	2 前	128					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅱ-3 (七宝技法)	七宝の基本的な技法を習得しオリジナルなペンダントトップを制作する工程を学習する。	2 後	120					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅲ-4 (カービングテクニックⅠ)	象牙を素材としカービングによるオリジナルなペンダントを制作する工程を学習する。	2 後	168					○	○	○					
○		メイキング造形実習Ⅲ-5 (テーマからのジュエリー制作Ⅰ)	企業からのテーマをもとにオリジナルなジュエリーを制作する工程を学習する。	2 後	120					○	○	○					
○		宝石学A-2 (ダイヤモンドの基礎知識)	ダイヤモンドに関する知識と実技実習。ダイヤモンドの全般的な知識と顕微鏡等の器具を用いた評価法の実技実習を学習する。	2 通	40			△		○	○	○					
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	2 通	24					○	○	○					
		○ 自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2 通	136					○	○	○					
○		デザイン造形実習Ⅲ-1 (自己プロモーション)	これまでの作品や、スクラップブックの制作等を通して自己表現の可能性を探ることによって自己分析方法を学習する。	3 前	64					○	○	○					

○		デザイン造形実習Ⅲ-2 (オリジナルデザイン)	企業の新商品デザインの提案をコンペティション形式で行うデザイン実習。今の時代に求められているデザインとは何かを考え企画提案する。	3 前	32					○	○	○						
○		デザイン造形実習Ⅲ-3 (立体造形)	ひとつかたまりの材料を削り出すことにより、美しい造形を制作する。ボリューム感を大切にしたいデザインを学習する。	3 後	56					○	○	○						
○		デザイン造形実習Ⅲ-4 (ターゲットを絞ったデザイン提案Ⅱ)	提示されたジュエリーブランドリサーチを行い、その結果から、企業に向けて提案するジュエリーのデザインまでを学習する。	3 通	32					○	○	○						○
○		デザイン造形実習Ⅲ-5 (ポートフォリオⅡ)	イラストレーター、フォトショップを使用して自分の作品をまとめたポートフォリオを作成。制作方法、装丁方法を学習する。	3 後	72					○	○	○						
○		メイキング基礎実習Ⅲ-1 (海外作家ワークショップ)	海外作家によるワークショップの中で与えられたテーマでジュエリーを制作する工程を学習する。	3 前	40					○	○	○						
○		メイキング造形実習Ⅲ-1 (洋彫り/ニエロ技法)	洋彫りとニエロ技法によるオリジナルなブローチをデザインし、制作する工程を学習する。	3 前	176					○	○	○						
○		メイキング造形実習Ⅲ-2 (フィリグリー/グラニュレーション)	フィリグリーとグラニュレーションを施したオリジナルなジュエリーを制作する手順を学習する。	3 前	136					○	○	○						
○		メイキング造形実習Ⅲ-3 (展示販売会商品制作)	展示販売会用のオリジナルジュエリーの企画から制作、販売までの生産工程を学習する	3 後	160					○	○	○						
○		メイキング造形実習Ⅲ-4 (カービングテクニックⅡ)	芝山技法と象牙を使用してオリジナルジュエリーを制作する手順を学習する。	3 後	176					○	○	○						
○		メイキング造形実習Ⅲ-5 (テーマからのジュエリー制作Ⅱ)	与えられたいくつかのテーマよりオリジナルジュエリーを制作する工程を学習する。	3 後	120					○	○	○						○
○		宝石学A-1 (カラーストーン講義)	宝石の鑑別方法や、宝石を色別にそれぞれの特徴を価格の違い等も含め学習する。	3 通	56		△			○	○	○						
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	3 通	16					○		○	○					
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	3 通	136					○	○	○						
アドバンスドジュエリー専攻																		
○		デザイン基礎実習Ⅳ-1 (レンダリング 応用Ⅱ)	ハイライトレンダを使用してオリジナルなジュエリーを制作する手順を学習する。	4 前	32					○	○	○						
○		デザイン造形実習Ⅳ-1 (プレゼンテーションⅠ)	自分の分析および自分の求めるジュエリーについて考えをまとめ発表する手順を学習する。	4 前	56					○	○	○						
○		デザイン造形実習Ⅳ-2 (プレゼンテーションⅡ)	制作した新素材、新技術の研究発表をまとめプレゼンテーションする方法を学習する。	4 後	64					○	○	○						



○	デザイン造形実習Ⅳ-3 (テーマからのデザイン展開)	古からの美術、技術、デザインを現代のジュエリーデザインに展開する方法を学習する。	4 後	64					○	○	○					
○	デザイン造形実Ⅳ-4 (コンテスト用デザイン)	ジュエリーデザインコンペに応募する為のデザイン画の描き方を学習する。	4 後	32					○	○	○					
○	メーキング基礎実習Ⅳ-1 (溶接実習)	レーザー溶接機、及び、アクアウェルダの使い方の基礎を学習する。	4 前	32					○	○	○					
○	メーキング造形実習Ⅳ-1 (新技術・新素材の研究)	新素材・新技術を目指し、発掘・開発・組み合わせなどを研究し、制作する工程を学習する。	4 前	168					○	○	○					
○	メーキング造形実習Ⅳ-2 (宝石のカット/ジュエリー制作)	オリジナルカットの宝石を研磨し、それを生かしたジュエリーを制作する工程を学習する。	4 後	128					○	○	○					
○	メーキング造形実習Ⅳ-3 (打ち出し技法 応用)	軟鉄を使用し、打ち出しによるジュエリーを制作する工程を学習する。	4 前	64					○	○	○					
○	卒業制作および講習会	4年間の集大成として、知識、技術、思考力を生かし、オリジナル作品を制作することを学習する。作品は卒業制作展にて発表する。	4 後	432			△		○	○	○					
○	ビジネス講義Ⅳ-1 (企業セミナー)	ジュエリー業界の様々な分野の方の話を直接聞く事により、ジュエリー業界の実際を広く学習する。	4 前	32			○			○			○			
○	学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	4 通	32					○		○	○				
○	特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	4 後	4			○			○		○				
○	卒業テスト	ジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を試験を通して確認する。	4 後	4					○	○		○				
	○ 自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	4 通	136					○	○		○				
<b>インスティテュート専攻</b>																
○	デザイン基礎実習Ⅳ-1 (プロモーション/PCスキル)	画像編集ソフトの操作方法を学び、自己のプロモーション方法を学習する。	4 前	40					○	○		○				
○	デザイン基礎実習Ⅳ-2 (プレゼンテーション)	自身の創作活動や考え方などを自己作品を素材としてビジュアルにまとめることによりプレゼンテーションのスキルを身につけることを学習する。	4 前	48					○	○		○				
○	デザイン造形実習Ⅳ-1 (リサーチブック)	自身で収集した資料から研究対象を見つけ、日常の中にある創造性を可視化する1冊のブックを製本作成することを学習する。	4 前	136					○	○		○				
○	メーキング基礎実習Ⅳ-1 (鍛造技法)	鍛造技術を用いて、木目調の模様を持つ鋼「ダマスカス鋼」の鍛錬方法を学習する。	4 前	32					○	○		○				

	○	メイキング基礎実習Ⅳ-2 (学外での海外作家ワークショップ)	海外からアーティストやデザイナーを招聘し、校外施設で行うワークショップ。新しいアイデアの抽出方法や発想方法を学習する。	4 前	32						○	○	○			
	○	メイキング基礎実習Ⅳ-3 (芝山細工技法)	江戸時代より伝わる日本の伝統技法。天然素材同士を象嵌する技法「芝山細工」を実習する。	4 前	64						○	○	○			
	○	メイキング造形実習Ⅳ-1 (リサーチブックからの作品制作)	メイキング造形実習Ⅳ-1で製本したブックのアイデア要素から作品展開し実制作する。イメージから実際の作品になるまでのプロセスを学習する。	4 前	128						○	○	○			
	○	メイキング造形実習Ⅳ-2 (展示販売会商品制作)	商品性を重視した制作授業。学内で仮設空間を設営し販売まで行い、デザインから生産、販売までの一連の流れを学習する。	4 後	120						○	○	○			
○		卒業制作および講評会	4年間の集大成として、知識、技術、思考力を生かし、オリジナル作品を制作することを学習する。作品は卒業制作展にて発表する。	4 後	400		△				○	○	○			
○		ビジネス講義Ⅳ-1 (企業セミナー)	ジュエリー業界の様々な分野の方の話を直接聞く事により、ジュエリー業界の実際を広く学習する。	4 前	32		○					○	○			
	○	コミュニケーション演習 (英会話)	英会話の基礎から日常会話、プレゼンテーション方法について学習する。	4 通	64					○		○	○			
	○	教育実習	授業サポートを通じて指導側の立場を体験することで、コミュニケーション力を身につけることを学習する。	4 通	40						○	○	○			
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	4 通	40						○		○	○		
○		特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	4 後	4		○					○	○			
○		卒業テスト	ジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を試験を通して確認する。	4 後	4						○	○	○			
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	4 通	136						○	○	○			
合計					89	科目	6408	単位時間(		単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件＝卒業までに必要な履修科目をすべて履修していること。 必修科目のすべてを履修していること。自由選択科目は対象外。		1学年の学期区分	2期
履修方法＝課題物評価では『F』以外、試験では70点以上で履修となる。		1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。